

やまのかたりべ

第63章 開聞岳

2015年9月のある日、両親より突然の誘い。「鹿児島のお母さんのところに帰ろうと思うがあなたも来る？」姉も同行して、16年ぶりで祖母に会うことに。

ついでに鹿児島山もどこか登ろうと姉と計画し「開聞岳」を選択。せっかくだから女子力を発揮して、頂上で暖かい物でも作ろうとガスのカートリッジを通販で購入する。準備万端！後は天気を祈るのみ。二日間祖母の家でお世話になる。

<ポイント1>

開聞岳は、鹿児島県薩摩半島の南端に位置する標高924メートルの火山。霧島錦江湾国立公園 特別保護地区に指定されており、日本百名山にも選定されている。

その見事な円錐形の美しい姿は「薩摩富士」と称され南薩のシンボルとなっている。

詳細は、「かいもん山麗ふれあい公園ホームページ」下記参照。

<http://youkoso-ibusuki.com/kaimon/>

深田久弥の百名山で二番目に標高が低い山である。

1000m以下の山は開聞岳と筑波山のみとなっている。



(根占港での掲示板)

祖母の家から開聞岳は車でないとかなりの距離なため、登山前日に開聞岳に近い指宿という町で一泊し翌日下山後そのまま鹿児島空港まで行き、飛行機で東京に戻るというハードスケジュールになる。

11月23日(日)

祖母の自宅を13時に出発し、車で鹿屋というところまで送ってもらう。その後、バスで大隅半島根占港に向かいそこから水上タクシー(船舶)で薩摩半島の指宿港に移動し、指宿港から本日宿泊のホテルまで徒歩で目指す。宿泊のホテルに着いたのは17時30分すぎ。近くのコンビニで夕飯と明日の行動食を購入する。ホテルに戻りテレビを見ながら夕飯を食べていると、明日種子島で初の民間ロケットが打ち上げられるというニュースが耳に飛び込んでくる。打ち上げ予定の時刻には我々は既に開聞岳を下山している予定。頂上から見物することができないとは残念。

11月24日(月) AM 4時30分起床

食料の最終確認を済ませ、指宿駅に向かう。指宿枕崎線、6時9分の始発電車に乗り開聞駅に向かう。この電車を逃すと次が7時13分まで電車がなし。始発だということに学生たちがたくさん乗っている。毎朝この時間の電車を利用しているのであれば常は何時起床なのだろう？都会の利便さを痛感する。電車はワンマン車という事で全ての車両のドアが開くわけではない。降りるときのドアも決まっている。利用される際は気を付けないと降りたい駅で下車出来なくなってしまう恐れがある。

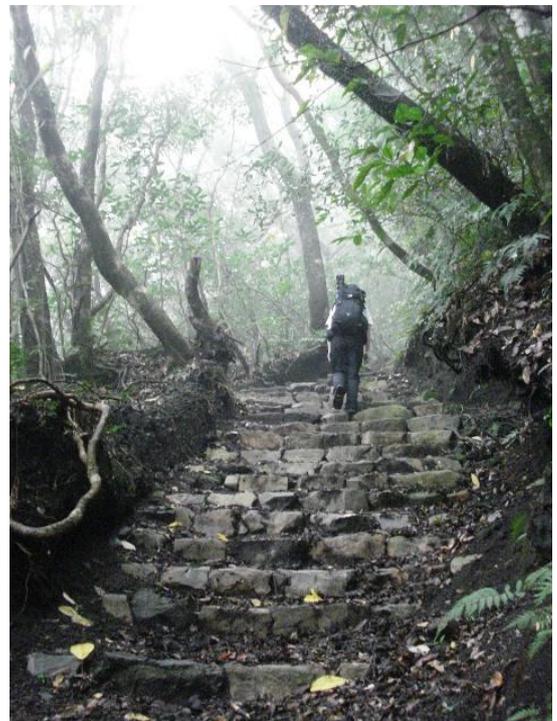
6時34分 開聞駅到着

駅と言っても改札口はない。ちょっとしたロータリーにトイレと自動販売機、ベンチが設置されている。下車したのは我々と、ザック姿の女性1人。ここから登山口までは徒歩で約20分。停車していたバスの運転手さんに開聞岳登山口の行き方を尋ねる。ザック姿の女性も登山口までの行き方が分からなかった様子。バスの運転手さんに「時間が無いからさっきお伝えした説明、してあげてね」と頼まれ説明する。

身支度をし、6時45分駅を出発。教わった道順に進み、右に曲がると正面に開聞岳の姿が現れる。生憎上部には雲がかかっている。今日の天気は晴れの予報であるが、山の天気はやはり違うのか！？山頂に到着するまでにどうか晴れて下さい！雲に覆われた開聞岳をみつめながら姉と二人で祈る。登山口2合目までは、舗装された道を歩く。

7時15分 2合目登山口着

ここからいよいよ登山道に入る。なだらかな坂道がしばらく続く。「このぐらいの坂道が山頂まで続けば楽だね～」と姉が独り言のように言いながら先を行く。石で作られた階段が時々現れる。しばらく樹林帯で、景色は見えぬ。3合目を過ぎ4合目辺りからザラした小石の登山道になる。下山時滑らないよう気を付けたい。



(4合目から5合目の途中)

7時55分 5合目到着

展望台があるが、自分達は霧の中にいるようだ。陽の光がうっすら入ってくるが景色は全く見えぬ。しかし、だんだんと霧が切れ始める。木々の間から木漏れ日が指してくる。強い期待を持ち先に進む。5合目を過ぎると大きな石がごろごろ登山道に出没。

8時10分 6合目到着

道は良く整備されている。木段やロープなど所々に設置されている。

8時20分 7合目到着

7合目から2、3分もしないところを開けた場所があり、海を眼下に見ることが出来る。残念ながら、もやがかかっている遠くまでの景色は見えないが風が気持ち良い。気温が暖かいのだろう、半袖で十分。ここから、また少し進むと仙人洞というポイントを通り過ぎる。

<ポイント2>

仙人洞…「孝徳天皇の頃、開聞岳北麓の「岩屋」(開聞中学校の南150m)にある観音堂は、山伏たちの修行所として諸国からの出入りが多く、開聞宮(かいもんぐう)の社人(しゃじん)たちも山伏となり、ここから修行に出かけていた。この洞窟は、開聞岳が噴火したときに溶岩がせりあがってできたもので、山伏たちの修行の場として使われ、「仙人洞」という名前が付けられたといわれている。(説明板参照)」

調べてみると、以前は開聞岳の登山の途中でここまで使ってきた杖をこの洞窟に投げ入れて、杖に感謝

し、これからの登山の安全を祈願する人が多くいたが、今は禁止されている。

8 合目に向け、大きな岩場をよじ登る、ちょっとしたロープ場が出て来る。軍手があるといいかもしれない。



(7 合目から 8 合目までの途中)



(9 合目途中からの景色、影は開聞岳)



(9 合目標識過ぎた後の梯子)

8 時 40 分 8 合目到着

山頂まであと 0.8 km とのこと。「800m なんて 400m トラック 2 周だと思つとすぐだね」姉と会話を交わす。互いに中学時代は陸上部だったので距離は何となくつかめる。そしてここからも大きな岩の道が続く。

8 時 55 分 9 合目到着

一息ついていると、上から男性が一人軽やかに降りてくる。「山頂の景色はどうですか？」と私が尋ねると「遠くは見えないけど、晴れて最高ですよ！開聞岳の影も見れますよ！」とのこと。雲に覆われる前に早く山頂へ！ということで再び歩き始める。

山頂近くで短い急な梯子が現れる。さらに大きな岩を登りつめ、山頂へ。

9 時 15 分 開聞岳山頂

山頂には、皇太子様が登山された際の記念碑が設置されている。

天気がいいと屋久島や硫黄島も見えると案内されているが、私の目では見えず。この日は桜島も見えない状態。池田湖、枕崎がぼんやり見える。姉と「夏山みたいだね…」と話ながら、霞がかかった景色を堪能。その後は早い昼食？の準備へ。ラーメンを食べている間に、前日に購入したパウチの豚の角煮を温める。味も良くしみこみ、トロトロで美味。昼食後はインスタントコーヒーでまったりする。

自分たちが食事を楽しんでいると後から登山者が数人現れる。自分のガスのカートリッジは飛行機で持って帰れないため誰かにあげようと思っていたが、会話を聞いているとみんな地元のかたではない様子。仕方がないので空港で没収してもらうことにする。

思いの外早く山頂に到着したので、一時間以上山頂で過ごす。

10時30分 下山

下山は苦手と言う姉だが、職場の山仲間とちょこちょこ山に行っているためかスムーズに降りている。山歩きも慣れるものですね。

下山途中、何人かの登山者とすれ違う。「あの人たち山頂でロケットの打ち上げ見るんじゃないの～」と羨ましそうな姉。確かに今から登れば十分間に合うし、「私も見れるもんなら見たいな～」と二人で帰りの飛行機の時間を思いながら下山。

途中の5合目のテラス。朝とは異なり景色が開けている。

12時12分 二合目登山口到着

開聞岳を背に駅に向かう。途中振り返ると開聞岳の上部は雲の中……。独立峰だから雲がかかりやすいのか？ たまたまか？

12時47分 開門駅に到着

予定よりだいぶ早い到着。これなら余裕をみて空港まで行けると思い、電車の時刻を見ると、なんと最初に予定していた14時08分まで電車がなし！ それならそれで、のんびり待ちましょう。トイレで着替えを済まし、ザックの中を整理整頓する。

14時08分 指宿枕崎線に乗車

私も姉も、ペーパードライバーのため今回は全て公共施設を利用した移動。時間はところどころでかなりのロスになるが、たまにはのんびりローカル電車やバスの旅もいいものだな～と、上下に揺れる指宿枕崎線の車内、景色を存分に楽しんだ。

6時34分 開聞駅到着

7時15分 開聞岳登山口2合目到着

7時55分 5合目到着

8時40分 8合目到着

9時15分 山頂到着



(日本最南端のJR駅 西大山駅と開聞岳)



(↑山頂から薩摩半島方面)

10時30分 山頂出発

11時00分 8合目到着

12時12分 2合目到着

文責:松田留美